



鈴井貴之さん

大泉洋さん

藤村忠寿さん  
チーフディレクター

嬉野雅道さん  
ディレクター  
兼デジタルビデオ撮影

# 『水曜どうでしょう』の人々 スペシャルインタビュー(その1)

日本全国で多くのファンに支持されているテレビバラエティ『水曜どうでしょう』(北海道テレビ放送制作)。昨年末から3月まで放送された新作「北海道で家、建てます」は、出演されている赤平市出身の鈴井貴之さんの縁もあって、赤平が舞台となりました。

赤平市では最終夜(最終回)の撮影前に出演者の皆さんにインタビューする機会をいただきました。『水曜どうでしょう』がファンに愛される秘密はどこにあるのか聞いてみました。

## 『水曜どうでしょう』in赤平

まずは大泉さん、赤平の印象をお聞かせいただけますか。

**大泉洋さん(以下、大泉)** 赤平のイメージってやっぱり「がんがん鍋なんですよ。赤平にはがんがん鍋を楽しみに来ていると言ってもいいかもしれない。今日も来てすぐにいただきましたよ。何ともおいしいですよ。札幌では味わえない。濃い目の味付けでご飯が進みます。

ありがとうございます。

全国的に有名な『水曜どうでしょう』を赤平でやろうと思っただきっかけを教えてください。

**鈴井貴之さん(以下、鈴井)** 前回2013年のアフリカ旅の打ち上げで、藤村君(番組チーフディレクターで、番組の出演者でもある)が「家を建てたい」と言い始めて、「土地持っているんだったら貸してよ」という話と、赤平で何かやりたいと思っていったことが重なって、「いいよ」と感じて決まりました。藤村君が言い出しっぺです。

『水曜どうでしょう』は「旅」をするイメージもありますが、今回、赤平から動かないと聞いたときはどう思いましたか。

**大泉** 家を建てるってというのは会長(鈴井さん)の家で聞いたんですけど、意味が分からなかったですね。どういうことになるのかな。家を建てるのが簡単に行えることは思わなかったし、どうするのかなど。

戸惑いがありましたか。

**大泉** 戸惑いしかなかったですね(笑)

## 企画は「の次」という領域

— 鈴井さん

藤村さんが、今回の『水曜どうでしょう』の放送で、企画が「迷走」していると話していました。が、いかがでしたか。

**大泉** 「迷走感」はありましたね。何でこんなに企画発表しないんだらうって。初回放送の1週分が終わっても企画発表しませんでしたからね。

**鈴井** 皆さんYouTubeなどご覧になってますけど、プライベートや舞台裏をオープンにするという点で、『水曜どうでしょう』はある意味そのハシリといった番組だと思うんですね。

今回の『どうでしょう』は一般的な既存のテレビ番組とは違う領域に行っちゃってるのかなあ。いつしか企画は「の次」というか、4人が集まれば『水曜どうでしょう』になるという感じ。かつての『どうでしょう』ではワカサギ釣りやしようですとか、駐車場料理を作ろうですとか、いろいろやってきましたけど、今回は旅ではなくてそういう雰囲気のものがないのかなあと思って。何をやるのか、どこへ行くとか、

考えないっていうのもいいかなって。変な領域に入っているのかなと思いますね。

4人が集まれば『どうでしょう』になるというお話もありましたが、どうしてこのメンバーに楽しいことが起こるのだと思いますか。

**大泉** いつも楽しいことが起きるといってもないんですよ。見た人がそう思ってくれてることはありがたいんですけど、こちとしては番組を面白くしようと必死ですからね(笑)。

(番組中、大泉さんが料理を作る場面がありました。かつての放送でも適当に作った料理を出演者にふるまうシーンは有名です)

**大泉** 今回の料理なんかも、無理やりやってますからね(笑)。

適当には作ってるけど、私は最初からマズイものを作ってるうとは思わないんですよ。そうしたら面白くない。適当なんだからマズイに決まってるよねって。無茶苦茶なんだけどギリギリおいしいっていうところに持っていくたかったんですよ。味はどっちでもいいと思ってるわけです。おいしくなかったら「おいしくねえじゃねえか!!」っていう、いつもの楽しい『どうでしょう』が出来上がるし、でも「無茶した割にうまいな」っていう笑いもあるわけで。笑いとってはどっちでもいいんですよ。

私も人生経験が豊富になっちゃったんで、昔ほど失敗しなくなっちゃったんですよ。今回

のロケでいうと、料理も案外うまく出来ちゃって。でも、それはそれでいいよねと。

料理一つとっても、ギリギリのところを攻めることで笑いが生まれるんです。

**鈴井** 4人が集まって、わあ、楽しいなあと思うようなら、プライベートでも集まってるでしょうね(笑)。

それぞれがのほほんとしてるようでも、それぞれの立ち位置があって、それぞれの役割を担っているんです。そして予定調和でないところで何か起きたときに「こた。行くところは!!」っていうのもそれぞれが思っただけでいい。そのバランス感覚が4人ともわかっているから楽しくできるんですよ。

**大泉** そうですね。

**鈴井** これが常に全員で前に出てきたら、ガチャガチャしててうるさいなあってなるでしょうね。それぞれが考えていないように考えながらやってるんです。繊細なんです。だから、正直疲れますよね(笑)。

**大泉** みんなが集まっただけで楽しいことが起こるなんて思ったら大変ですよ。こっちはもう20年やってる『どうでしょう』です。素人さんがマネできるものじゃありません(鈴井さんと2人で笑)。放送中ずっと「決してマネしないでください」ってテロップを出しておかないと。

そんなマネのできないやりとりが、皆さん楽しいと思ってくれるところなんですよ。

楽しいお話をありがとうございます。最後に、メッセージをいただけますか。

**鈴井** いろいろと考えていることはありますし、今後ともご協力をお願いすることがあるかもしれないですが、皆さんどうぞよろしく願います。

チーフディレクターの藤村忠寿さん、ディレクター兼ビデオ撮影の嬉野雅道さんにもお話をいただきました。そちらは次回に。

## 「FunぶっもinSPRO」

— 大泉さん